

昭和初期ころの

宮川沿い土手道

写真提供・西今町 塩山剛さん

雪の残る宮川西岸、宮川大橋下流の土手道、遠景には吉井川対岸にある硯山のすゝきがぼんやりと見えています。建物に沿って職が数本立っています。ここには宮川座という両花道のある立派な芝居小屋があり、昭和30年代の終わりころまで、芝居興行が行われていたそうです。また、この界隈には江戸時代、津山藩重臣の下屋敷があり、宮川に近いほうから大熊邸や小須賀邸などが軒を連ねていて、現在、材木町にある小須賀稻荷神社にその名を残しています（城下町絵図参照）。

写真のように、川沿いには見事な枝振りの松がある



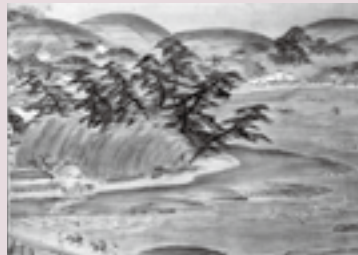
りました。この宮川大橋から下流に向けての道沿いに松があった様子は、鋳形くわがたけ齋さいが描いた津山景観図屏風（文化7年（1810）頃）でも見て取れます。

吉井川と宮川の合流点に津山大橋（通称・新大橋）が架かったのは昭和32年。写真の土手道はまだ低く、川面までの距離が近いように見えます。穏やかに流れる宮川とその水面に映える松並木は情趣あふれる景色だったことでしょう。

河川や道路の改修によりその様相も変わっていき、宮川座も駐車場になってしまいました。今はなき、津山の懐かしい風景がここにありません。



現在の宮川西岸



津山景観図屏風（文化7年頃）



城下町絵図（文政3年）

このコーナーに掲載する懐かしい津山の写真を募集しています

問い合わせ先

〒708-0022 津山市山下92
津山郷土博物館 ☎22-4567

表紙について

桃の節句に一服どうぞ

弥生・桃の節句は女の子の健やかな成長を祝うお祭り。お茶会でも、お内裏様とお雛様を床の間の掛け軸や茶器にあしらってお祝いします。

うららかな光が差し込むお茶席でいただく一服にはきっとほのかに春の香りが残るでしょう。



姪めいが生まれた。泣いている姪めい子こを泣き止ませてみよう。お乳は…あげた。オムツは…替えた。「おぎゃー！」抱っこをしてみる。おー、よしよし。「おぎゃー！」…。姪めいの母親と抱っこを交代。あれ、泣き止んだ。…なぜだ。「だって、お母さんだもの」…そんなの、ずるい。(～)

科学雑誌ニュートン編集長水谷仁さんの講演会「はやぶさが挑戦したもの」で、宇宙でのはやぶさの軌跡や自然現象には必ず法則があることなどを興味深く聞きました。以前から天体に関心はあったけれど近寄り難かった科学の世界に、少し近づけたような気がします。(G)

つやま検定の勉強のため津山郷土博物館と津山洋学資料館へ。史料に見入る内、それぞれの時代で地域を支えた名も無き先人の苦勞に感謝の念と、そんな先人もわたしたちと同じ一人の人間であったという安堵の感を持ちました。わたしたちは未来に何を残せるのだろうか。(修)

編集・発行（毎月10日発行）

津山市総合企画部秘書広報室（市役所3階）〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-32-2029 ☎0868-32-2152 ✉kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます
<http://www.city.tsuyama.lg.jp/>



津山市ホームページPC版

広報つやまは、環境保護のため再生紙と大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクル（雑誌）にご協力ください

